JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	金沢箔を知る　－なるほど！ガッテン金箔－
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ２，21
Issue Date	2009-03
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8212
Rights	
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

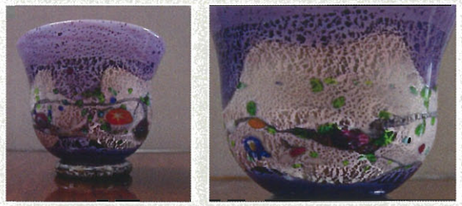
Japan Advanced Institute of Science and Technology

3 今後の展望

現状は金沢箔の生産高は下げ止まらない状況です。現在、事業所数 118、従事者数 652 名、生産高 22 億円、箔の産地として最盛期だったと思われる昭和 50 年代中頃と比較すると、それぞれ 33%、47%、24%と激減しています（石川県箔商工業協同組合提供データ）。原因は、金箔の用途の 80～90% を占めるといわれる、仏壇仏具、神社仏閣の需要激減です。この背景には、日本独自の宗教（仏教）文化の衰退、中国における仏壇仏具生産の影響、さらに金仏壇に替わる唐木仏壇、家具調仏壇の台頭などがあります。もちろん中国を中心とした安価な外国箔、及び箔の代替え技術である真空蒸着（真空中で蒸気にした金、銀などの金属をポリエステルフィルムなどに貼りつけることによって箔を作る技術）の影響もあります。

2009 年 2 月 9 日、縁付金箔の技術を後世に残そうと、国の文化財「選定保存技術」認定に向けて、金沢金箔伝統技術保存会が設立されました。選定保存技術に認定されることにより、金沢箔のブランド力が高まるうえ、国宝、文化財などの修復で優先的に使用されるようになります。また、国の助成制度も受けやすくなります。保存会会長に就任した松村謙一氏は次のように語ります。「現在、箔打ち職人の高齢化は深刻化しており、後継者もほとんどいない状況です。若手といっても 30 代が 3，4 人いるだけです。個人では技術の保存、後継者の育成、また和紙などの道具としての材料の確保も難しい。保存活動を通じて、関係者の問題意識を高めてこれらの問題に取り組むのは、今しかありません。その活動の延長で国の認定ということに繋がればよいと思っています。」

400 年以上続いている金沢箔、産業として生き残っていけるか、金沢箔は今その過度期にあります。



新たな取組みプラチナ箔による美術品　黒木国昭 作

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成 18 年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発　行　2009 年 3 月

発行所　国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292　石川県能美市旭台 1-1　知識科学研究科棟 II 7 階

本誌は、文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成プログラムの助成を得て発行しております。

■本誌に関するご意見、お問い合わせ
TEL：0761-51-1839　FAX：0761-51-1767　E-mail . dento-secr@jaist.ac.jp

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY 1990
北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES
社会イノベーション・シリーズ 2

金沢箔を知る
― なるほど！ ガッテン金箔 ―

「黄金の国・ジパング」を西洋に紹介したのは、イタリアの旅行家マルコ・ポーロでした。その黄金が、現在も金沢の街に 1 万分の 1 ミリの金箔として息づいています。金沢箔は、国の伝産法（伝統的工芸品産業の振興に関する法律）に基づく伝統工芸品であり、日本の金箔のほとんどが金沢で生産されています。そんな、金沢箔のポイントをご紹介します。

No.21

KANAZAWAHAKU

1 金沢箔とは

石川県金沢市を中心とする箔の産地が生産する金沢箔は、400年以上の歴史をもちます。箔生産において全国シェアの実に98%以上を占めており、石川県の代表的な伝統工芸産業でもあります。金沢の製箔がいつの時代に始まったのかは定かではありません。確かなことは、藩政の初期、前田利家の時代にすでに行われていたことを、利家が肥前名護屋在陣中（1593年・文禄2年）に、7月付の書状にて能登の工人（職人）に金銀箔を命じたということで知り得るのみです。実は、金沢箔は使用する地金（じがね）により4箔存在します。「金箔」、「銀箔」、「洋箔（=真鍮箔、銅と亜鉛の合金）」、「アルミ箔」です。そして、金箔には400年間ほぼ変わらぬ製法の伝統的な「縁付（えんづけ）金箔」と、昭和40年以降に開発された近代的な製法による、生産性が高い「断切（たちきり）金箔」があります。縁付金箔は、箔を延ばすのに手漉（す）きの和紙を使用しますが、断切金箔は、グラシン紙にカーボンを主成分とした顔料を塗った特殊紙を使用します。縁付金箔の特性を持つ金箔は世界でも日本（金沢）でしか製造できない。製造工程は右図のとおりです。

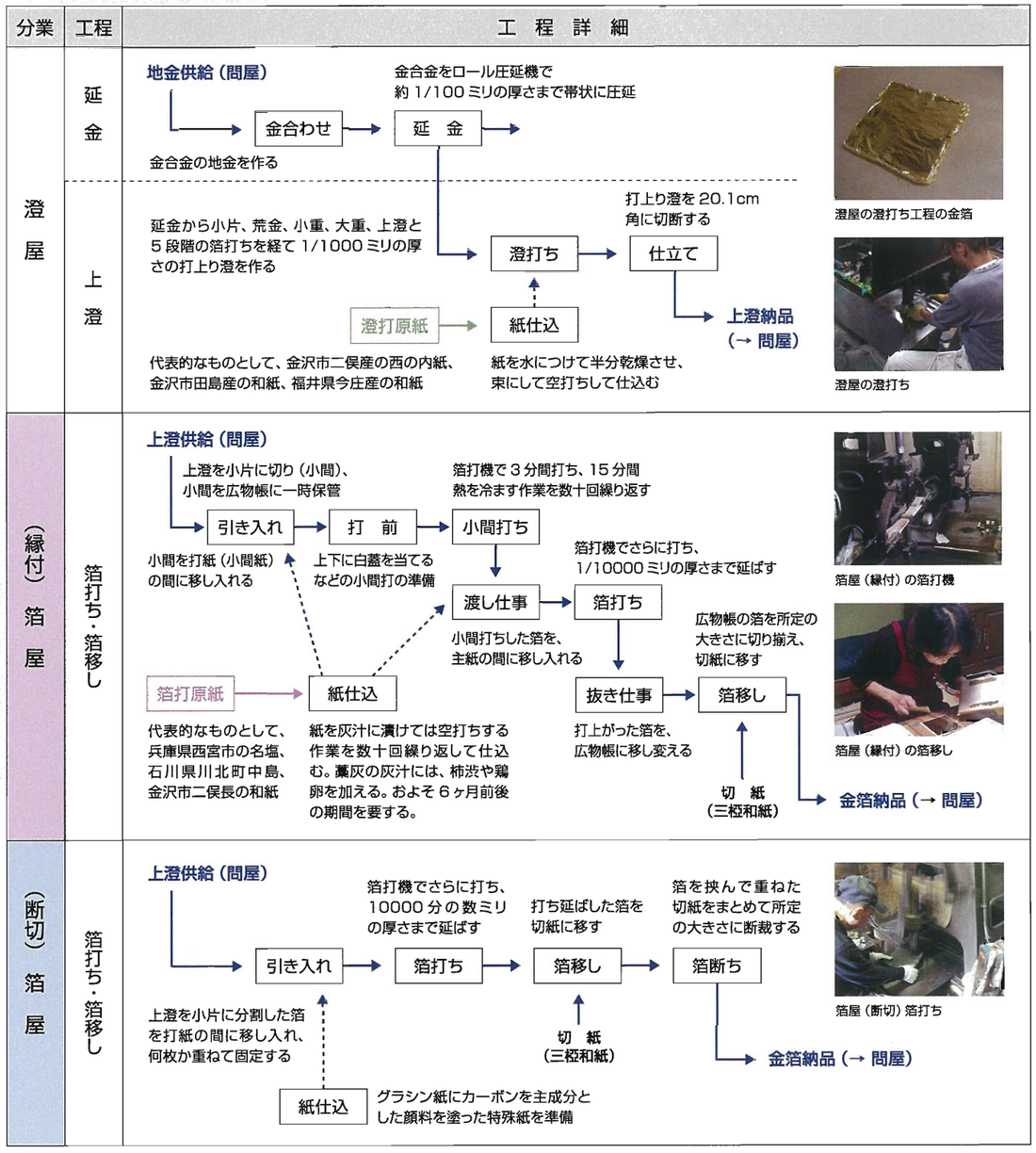
種類		特徴	主要用途
金箔	縁付	厚さおよそ0.3〜0.4ミクロン、伝統的な製法、製造に手間暇、品質重視、高価、和紙模様の微妙な起伏、柔らかい	高級仏壇・仏具、他
	断切	縁付より若干厚い、近代的な製法、生産性高い、大量生産、安価、光沢があり平坦、硬い	普及仏壇・仏具、他
銀箔		厚さおよそ0.4〜0.8ミクロン	西陣織、他
洋箔		厚さおよそ0.7〜0.8ミクロン、銅と亜鉛の混合で真鍮箔とも呼ばれる、銅箔をも意味する	押紙、額縁、他
アルミ箔	アルミホイル	およそ3ミクロン	西陣織、押紙、他
	アルミ薄箔	およそ0.7〜0.8ミクロン	同上

出所：石川県商工労働部（1981）参考

2 金沢箔におけるイノベーション

伝統的な金沢箔にもイノベーション（技術革新）は存在します。近代においては、昭和40年頃開発された断切技術です。断切技術は、伝統的な縁付と比較すると生産性が約10倍であるといわれています。その理由は2つあり、1つは打ち紙の違いです。縁付の場合は紙の仕込に6か月前後の時間を要します。ところが、断切の場合は、箔用のグラシン紙にカーボン等の顔料を塗った紙を用意すればよいので、2、3日で出来てしまうのです。もう1つの理由は、仕上げの断裁方法が異なるからです。縁付の場合は箔写しという工程があって非常に手間が掛かるが、断切の方は仕上げ用紙に金箔を何枚も挟んだまま、まとめてばっさりと断裁するので時間が極端に短縮できるのです。断切金箔は、低コスト、短納期で大量の金箔を生産するという、この生産性の高さにより昭和40年代〜昭和50年代中頃までの金箔の需要増に応えていったのです。伝統的な縁付金箔と断切金箔は互いに補完するものであるが、現在生産されている金箔のおよそ80%は断切金箔です。

■金箔の製造工程（参考事例）



補足説明：
金箔の製造は、「澄屋（ずみや）」、「箔屋（はくや）」による分業制である。箔屋は、縁付金箔または断切金箔を扱い、製造工程も異なる。

出所：平成13年度伝統的工芸品産地調査・診断事業報告書（財団法人　伝統的工芸品産業振興協会）、及び聞き取り調査をもとに作成